

横浜の海でみられた 珍しい生き物たち

～第15回 海域生物相調査 結果報告～

横浜市では1973年から継続的に海域生物相調査を実施しています。2020年から2021年にかけて第15回目にあたる調査を行ったところ、魚類は3種が初確認されました。いずれも主たる分布域が東京湾の外側（外洋）であり、湾内では珍しい種でした。また海岸動物においては、引き続き外来種が多く確認されました。

1 外洋の魚類が東京湾で出現

今回の調査では、主たる分布域が東京湾の外側（外洋）であるハモ、イゴダカホドリ、クツワハゼが初確認されました。また、これまでは分布が東京湾湾口部に限られていたとされるテナガツノヤドカリや、東京湾では珍しいヒラテコブシも初確認されました。要因は明らかではありませんが、分布域が湾奥部に向かって拡大する現象がいくつかの生物でみられました。

また今回の調査では、第14回調査で初確認され、従来の分布域が東京湾よりも南方である“南方系種”として指摘したガンテンイシヨウジ、ヒナハゼが引き続き確認されました。海面水温上昇などの環境の変化に伴って国内での生息分布を北に広げつつあり、横浜市沿岸域においても定着が進んでいる可能性があります。

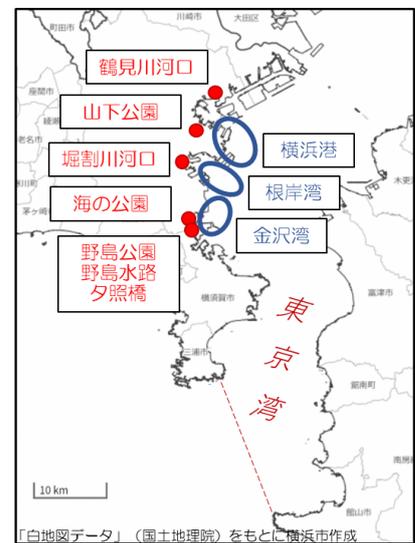


図 調査地点の位置



ハモ（横浜港）



イゴダカホドリ（金沢湾）



クツワハゼ（堀割川河口）

2 海岸生物における外来種の出現状況

横浜市の調査ではイガイ類やフジツボ類等の外来種が1985年から記録されており、長年にわたり定着しながら、徐々に種数を伸ばしています。

今回の調査でも引き続き多くの種が確認されたほか、現在の外来種リスト※¹には掲載されていないものの、本来の分布域が国外であるナンオウフジツボが初確認されました。

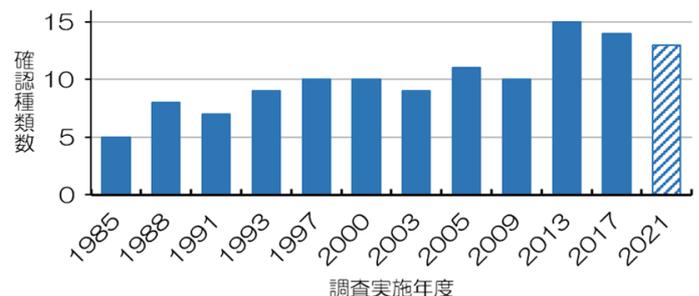


図 海岸動物における外来種確認種数の推移

調査概要

横浜市では、生物指標による水質評価や生物多様性の保全を目的として、海域生物相調査を実施しています。

今回は2020年10月(秋季)から2021年9月(夏季)の4季にかけて、河口・海岸域7地点と、内湾域3地点で調査を実施しました。結果は表のとおりです。

レッドリスト等掲載種^{※2}は21種が確認され、干潟に生息する巻貝類や甲殻類の他、魚類がその多くを占めました。外来種^{※1}は13種が確認され、その多くは二枚貝類やフジツボ類でした。

また、調査結果を基に、横浜市の生物指標によって水質階級を評価したところ、10地点全てにおいて「きれい」の水質階級となりました。この評価は第13回調査以降、継続して得られています。

表 第15回調査結果概要

区分	地点	調査項目	出現種類数	レッドリスト等掲載種 ^{※2}	外来種 ^{※1}
河口・海岸域	鶴見川河口 山下公園 堀割川河口 海の公園 野島公園 野島水路 夕照橋	海草・海藻	53	3	-
		魚類	54	5	-
		海岸動物	272	7	13
内湾域	横浜港 根岸湾 金沢湾	魚類	44	5	-
		底生動物	83	1	-
		プランクトン	100	-	-



写真 調査の様子(左:海の公園、右:金沢湾)

※1 環境省の特定外来種リスト、環境省及び農林水産省の生態系被害防止外来種リスト、並びに日本ベントス学会「日本における海産生物の人為的移入と分散」に「非在来の国外移入種」として掲載された種を外来種として抽出した。

※2 レッドリストとは絶滅の恐れがある野生生物の種のリストであり、環境省、神奈川県、東京都及び千葉県のリッドリストやレッドデータブック等に掲載された種を、レッドリスト等掲載種として抽出した。

調査結果をまとめた報告書「横浜の川と海の生物(第15報・海域編)」は横浜市立図書館や市民情報センターで閲覧できるほか、環境科学研究所のWebページにも掲載しています。

(横浜の川と海の生物 で検索)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/shiryo/kawatoumi/kawaumi15kaiiki.html>

お問合せ先

環境創造局環境科学研究所長 百瀬 英雄 Tel 045-453-2550